

回	テーマ	著者名	書籍名	出版社名	出版年
0回	準備会	Alan Beattie	Source of Concern	Financial Times 2008/12/13	
第1回	貿易と貧困の関係	バラット・ブラウン	『フェアトレード—公正なる貿易を求めて』	新評論	1998
第1回	貿易と貧困の関係	ジョセフ・スティグッツ、 アンドリュー・チャールトン	『フェアトレード—格差を生まない経済システム』	日本経済新聞出版	2007
第2回	MDGsと貿易の関係	ウィリアム・イースタリー	『エコノミスト南の貧困と戦う』	東洋経済新報社	2003
第2回	MDGsと貿易の関係	ピエトラ・リポリ	『のぼりのインマはここから木にのりか—誰も書かなかったグローバル化の歴史』	東洋経済新報社	2006
第3回	貧困をどう考えるか	ジェレミー・シーブルック	『世界の貧困—1日1ドルで暮らす人びと』	青土社	2005
第3回	貧困をどう考えるか	ガルブレイス	『ゆたかな社会』	岩波現代文庫	2006
第4回	グローバリゼーションをどう考えるか	スーザン・ジョージ	『なぜ世界の半分が飢えるのか—食糧危機の構造』	朝日選書	1984
第4回	グローバリゼーションをどう考えるか	ジャグディッシュ・バグワティ	『グローバリゼーションを擁護する』	日本経済新聞出版	2005
第5回	貿易の罨	ベリンダ・クーテ	『貿易の罨』	家の光協会	1996
第6回	美味しいと苦いの関係	村井吉敬	『エビと日本人Ⅱ 暮らしのなかのグローバル化』	岩波新書	2007
第6回	美味しいと苦いの関係	川北稔	『砂糖の世界史』	岩波ジュニア新書	1996
第7回	水はどこまで運べるのか	国際調査センター 国際調査センター	『世界の水が支配される!—グローバル化と水問題—グローバル化の恐ろしさ』	作品社	2004
第7回	水はどこまで運べるのか	コンビニ弁当探偵団	『コンビニ弁当16万キロの旅—食べものが世界を変えている』	小学館	2005
第8回	働く人と消費する人	キャロル・オフ	『チョコレートの真実』	英治出版	2007
第8回	働く人と消費する人	細井和喜蔵	『女工哀史』	岩波文庫	1925
第9回	貿易と企み	ナオミ・クライン	『ブランドなんか、いらぬ—搾取で巨大化する大企業の非情』	はまの出版	2001
第9回	貿易と企み	スコット・ペドベリー	『なぜみんなスターバックスに行きたがるのか』	講談社	2002
第10回	資源保護と貿易	ジョセフ・E・スティグリッツ	『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』	徳間書店	2006
第10回	資源保護と貿易	石川博友	『穀物メジャー—食糧戦略の「陰の支配者」』	岩波新書	1981
第11回	グローバリゼーションは何を運ぶか	マルク・レビンソン	『コンテナ物語—世界を変えたのは「箱」の発明だった』	日経BP	2007
第11回	グローバリゼーションは何を運ぶか	軍司貞則	『空飛ぶマグロー—海のダイヤを追え!』	講談社	1991